

代謝する立体格子の風景【佳作】

設計者



小野竜也



武脇卓磨



鯨坂康平



服部奨馬



齊川尚樹



李野



脇坂圭一

◎設計主旨

津島市は本町通りを中心に町並みが形成され、中世からの歴史・文化が色濃く残る地域である。しかし、町屋の老朽化・現代の生活スタイルと町屋のスケールの不一致・少子高齢化などにより町屋の空き家化・空き地化が進行している。そこで既存町屋を地域資源として活かし、人が住み続けることができ、また新たな住民を迎えることのできる保存・継承システムを考案した。以下にコンセプトを示す。

- ①既存部分をできるだけ維持・活用しつつ、新しい生活スタイルに合わせたプログラムとして賃貸住宅・シェアハウス・店舗を組み込む。
- ②適宜、既存架構を間引き、現代生活に合わせて空間を確保する。津島の景観の特徴である格子をデザインコードとして町屋スケールの立体木格子で諸室を囲み、家具／開口／耐震要素としても機能させる。
- ③隣接地の取得・運用も含めて、空き地を生活空間へ取り込みながら、町並みの修景と賑わいの演出を図る。
- ④通りには縁側やミセを配置し、奥には住戸を配置する。地域の人々と住民がコミュニケーションを図るパブリックな空間と、プライベートな空間を土間が緩やかに結び付ける。
- ⑤従来の町屋の課題であった通風・採光の確保のために、中庭やトップライトを設け環境改善を図る。

上記のコンセプトにより町屋・町並みとそこに暮らす人々が代謝をしながら、この場所独自の風景を生み出していく。

◎講評

○難波和彦審査委員長

住まいながら、構造的に補強し保存するために、既存の町家に木製立体格子を挿入するアイデアです。木格子は、既存町家を保存しながら現在の生活スタイルに空間を適応させ、空地を住空間へと取り入れて景観を整え、町家を地域の人々に開放し地域に根付かせるという複数の目的を持っています。

繊細な木製立体格子の緩やかな境界性や、多面的な機能性は高く評価されましたが、他方で、耐候性や構造的合理性など、技術的な検討の不足が惜しまれます。

○朝岡市郎審査委員

既存の建物に立体格子を組込み、構造補強と現在の生活スタイルに合わせたリノベーションの提案です。既存の建物を活用し、本町筋のおもむきを残しつつ賑わいを取り戻す提案ですが、もう少し津島の特色があればもっと良かったと思います。

○浅野聡審査委員

この提案は、立体格子を町家空間の内外に設置し、その場その場に求められる様々なニーズに対応して立体格子が柔軟に変化して利活用されていく点に面白さがありました。

アイデアはよいのですが、格子は全国の町家で見られる基本的な意匠でありこれだけでは地域特性が表現しにくく、(例えば飛騨の匠のように木組みの技等が地域特性を顕著に表現している事例もあることから)津島の町家の地域特性と絡めた立体格子の提案に出来るとより独創性の高い評価になったことと思います。

○生田京子審査委員

町家に木格子のボックスをいくつも挿入することで、既存の空間から現代のニーズにあった新しい空間へ変容させようとする試みである。特に空き地からのエントランスを確保するなど、使われづらかった奥側の空間の活用ビジョンが描かれている点が目をひく。

○清水裕之審査委員

伝統的な町屋建築に対して、あえて現代的な建築デザイン要素としての立体格子をはめ込んでゆく異化の手法は、ほかの提案にない新鮮さがある。また、そこで作り出される内部、外部の空間には、はっとした魅力を感じる場所があるのは評価したいところである。

しかし、303mm ピッチの立体格子が町屋のシングルグリッドモジュールとどのように整合するのか、45×45mm の太さの軸組が本当に最適なのか、これらの格子を風雨から守るディテールが十分に提案されているかなど、リアリティにかけるところが目立ったのが残念であった。

○日比一昭審査委員

立体格子をデザインコンセプトに、様々な空間や機能の提案がなされており、大変に力のこもったものであり、ビジュアル的にも、面白いのではないかと思います。保存の継承のシステムとしても興味がありますが、インパクトの強いものだけに、飽きがこないか、少し心配になりました。魅力的なコンセプトとして、評価したいと思います。